

地震発生！そんなときどうする

時間経過別に落ちついて行動しましょう

地震発生
緊急地震速報

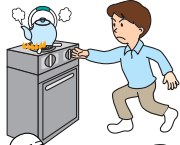
揺れを感じたり、緊急地震速報を見聞きしたら

- まず、手近な座布団などで頭を保護するなどの避難行動をとる
- 大きな揺れが来る前に、テーブルや机の下などで身の安全を確保する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、ブロック塀・自動販売機等に注意



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に 声をかけよう
- 隣近所で助け合う 災害弱者の安全確保
 - 行方不明者はいないか ●けが人はいないか

- 出火防止 初期消火
- 漏電・ガス漏れに注意 ガスの元栓・電気のブレーカーを切る ●余震に注意



ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる ●救出・救護を ●防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●電話は緊急連絡を優先する
- 津波からの避難などやむを得ない場合を除き原則 車は使用しない



協力して消火活動、救出・救護活動を

- 災害情報・被害情報の収集 ●無理はやめよう
- 助け合いの心が大切 ●こわれた家に入らない
- 3日間の飲料水と食料を日頃より備蓄しておく



状況に応じて避難しましょう

屋内にいた場合

家中

- ・揺れを感じたらすぐに身の安全を確保する。
- ・ガラスの破片に注意！（裸足で歩かない）



- ・コンセントやガスの元栓の処置をする。

デパート・スーパー

- ・かばん、買い物かごなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

劇場・ホール

- ・かばんなどで頭を保護する。
- ・係員の指示を聞く。



集合住宅

- ・ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- ・避難にエレベーターは絶対使わない。階段で避難する。
- ※エレベーター乗車中は全てのフロアのボタンを押して下地。

屋外にいた場合

路上

- ・頭をかばんなどで保護して、空き地や公園に避難する。
- ・空き地などが無い場合は、安全性の高い場所へ避難する。



- ・ブロック塀や自動販売機は、危険なので近づかない。

電車などの車内

- ・つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。



海岸付近

- ・高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報、警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

車を運転中

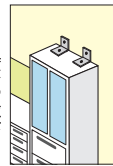


- ・スピードを落とし、道路の左側に停車しエンジンを切る。
- ・カーラジオで情報を収集する。
- ・避難するときはキーをつけ、ロックをせず、貴重品を持ち徒歩で避難する。

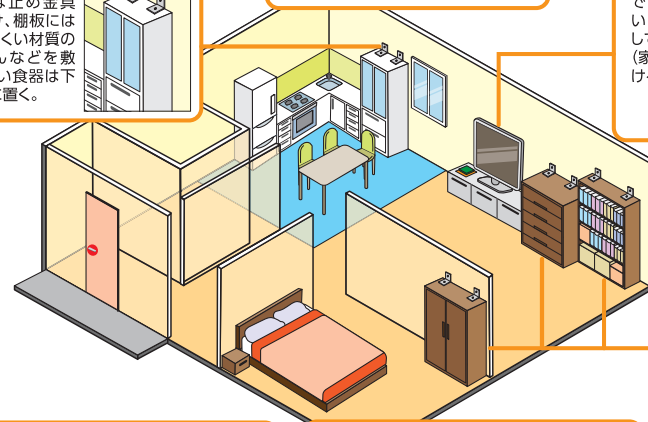
地震は事前準備が命を守る

食器棚

扉には止め金具をつけ、棚板には滑りにくい材質のふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。

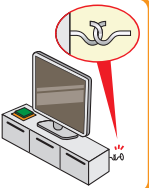


家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる



テレビ

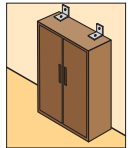
できるだけ低い位置に固定して置く。（家具の上はさける）



家具の転倒を防ぐ

ダンス・本棚

金具や支棒などで固定。



安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

震度の違いと被害想定

0 人は揺れを感じません。

1 屋内にいる人で揺れを感じる人もいます。

2 屋内にいる人の多くが揺れを感じます。

3 棚の食器が音をたてる可能性があります。

4 寝ていてもほとんどの人が目を覚まします。

5 家具が動いたり、食器や本が落ちたり窓ガラスが割れたりします。

6 重い家具、ブロック塀や自動販売機が倒れることがあります。

7 立っていることが困難になります。

8 はわないと動くことができない。家具が倒れ、戸が外れます。

9 自分の意思で行動ができない。地すべり、がけ崩れなどが発生します。